

令和4年度 茨城県立水戸飯富特別支援学校 学校自己評価表

〔別紙様式2-2〕

※評価基準： A：十分達成できている B：達成できている C：概ね達成できている D：不十分である E：できていない

評価項目		具体的目標	具体的施策	重点目標との関連	評価	課題及び次年度の改善策
相談支援部	校外支援	・特別支援教育の専門性の向上を図り、本校のセンター的機能の推進及び校内外の児童生徒に関する相談や支援の充実に努める。 ・近隣の学校や地域の人々へ、直接的な交流だけではなく新たな形で情報発信を行い、開かれた学校づくりに努める。	・管轄市町村教育委員会や外部専門家と情報共有する機会を設け、積極的に連携を図ることで、地域の幼児教育施設や小・中学校、高等学校等の教育的ニーズに応じた支援の充実に努める。	①⑤⑥⑦	B	・幼児教育施設や小・中学校、高等学校、管轄市町村教育委員会の教育的ニーズに応じた相談支援を随時実施できた。支援の充実を図るために外部専門家との連携を啓発して活用を促した。
			・巡回相談の事前事後にケース検討会を設定したり、係内研修を実施したりすることで、特別支援教育コーディネーターとしての資質向上に努める。	①⑥	A	・巡回相談の事前事後にケース検討会を実施し、より良い支援を目指しアドバイスをすることができた。高等学校への視察を通して、教育活動への理解を深め、支援が必要な生徒の情報と共有し、特別支援教育コーディネーターとしての資質向上に努めることができた。
	校内支援		・支援が必要な児童生徒についてケース会議や校内支援会議を実施し、情報の共有や支援方法の充実に努める。また、スムーズに校内支援会議が開催されるように、校内支援の流れを見直す。	①①⑥⑦	B	・支援が必要な児童生徒について、各関係機関と連携しながら校内支援会議を実施したり、兄弟への支援が必要な場合は他部合同でケース会議を実施したりして、情報及び支援の共有を図ることができた。 ・校内支援の流れを見直すことはできたので、次年度は改訂版を活用できるようにしたい。
			・ケース会議の意味や方法を再確認できるような勉強会を計画し実施する。校内支援体制の一層の充実をめざし、各学部で情報提供して共通理解を図る。	①②	B	・8月に勉強会を実施し、職員全体でケース会議の意味や方法を再確認することができた。次年度は勉強会の実施方法は検討する必要があるが、継続して行う中でさらに校内支援体制の充実につなげていけるようにしたい。
	交流・共同学習 地域貢献		・交流及び共同学習についての理解啓発に努め、コロナ禍における新しい交流及び共同学習の方法や内容を検討し、実施に務める。	⑤⑨	B	・作品を通した学校間交流を実施した。各部・学年での交流に向け、交流相手や交流学年について検討してきたので、次年度以降、新しい交流について方法や内容等を検討し実施していく必要がある。地域交流や居住地校交流では、感染症対策をとり直接交流ができたので、次年度も継続したい。
教務部	教育計画	・児童生徒の教育活動の充実に努める。 ・各部、各分掌部と連携を密にし、円滑な学校運営に努める。	・教育課程の検討・見直しを行う。個別的教育支援計画、個別の指導計画の活用について検討する。	①②③	C	・教育課程検討委員会等を経て、各部の教育課程見直しの機会を設けた。個別の指導計画については、来年度からの新システム導入に向けて導入の在り方を検討している。
			・教育活動の運営全般において計画及び調整を行い、各部、各校務分掌部と連携し教育活動の充実に努める。	⑥⑦⑧⑩⑪⑫⑬⑭⑮	B	・企画会や職員会議、またClassroom等を活用して情報共有や連携を図ることができた。
	新規採用教員研修・中堅教諭等資質向上研修		・新規採用教員研修及び中堅教諭等資質向上研修の目的と意義の理解を図り、効率的かつ充実した内容になるよう校内研修の計画を立てる。また、全教職員の指導及び助言によるOJT機能を生かした研修を充実させるとともに、ニーズに応じた研修やワークショップ形式を取り入れた研修を行うことで、実践的指導力を養うことができるよう努める。	②⑬	B	・初任者は月ごとに、2・3年次及び中堅は夏季休業中を中心に研修を実施することができた。講話形式が主となり、ワークショップ形式の研修が少なくなってしまったが、OJT機能を生かした研修を実施することができた。全年次研修者を対象とした中堅教諭主催の交流会や、2・3年次教員を対象とした係主催の学級経営に関する相談会などニーズに応じた研修が実施でき、先輩教員と年次研修者のかかわりを深め、悩み等を共有し合えるような場の設定ができた。
			・各年次研修の目的に応じた研究や授業実践が効果的に行われるよう、協力体制等の調整及び指導・助言を行う。授業反省会では、協議テーマを設定しテーマに基づいた協議を行うことで、授業力の育成及び向上に努める。	①②③④⑤⑬⑭⑮⑯	C	・授業反省会では、協議テーマを事前に周知することで協議内容が明確になった。多くの意見や助言等をいただくことで、授業者に加え参加者も考えを深めることができた。いただいた助言等を授業改善にどのように生かし、実践したのかについての検討が十分でなかったので、次年度につなげていきたい。
	体験入学		・教育委員会等の外部関係機関や校内関係分掌、部と連携を図るとともに、ホームページを活用し、体験入学に関する情報を発信し、円滑な実施につなげる。	⑦	B	・体験入学の実施について、各教育委員会や保育園・幼稚園・事業所等と連絡をとりながら、体験入学当日までの準備を進めることができた。また、ホームページに情報とともに申込み等の書式も入れ、活用していただいた。
			・校内関係分掌、小学部教育相談と連携して情報共有を行い、入学にあたっての諸準備が円滑に行えるようにする。	⑦	B	・計5回の体験入学を実施したが、第1回については校内支援部学校説明会と合同開催、その他もオンラインや行事との関連での開催など、各係と連携して行うことができた。
	教科書・図書		・教科書採択を県や本校の評価に沿って、組織的、計画的に行い児童生徒の実態に合った適切な採択に努める。	①④	B	・採択希望教科用図書の確認を係内で共有することで、期間を決めて進めることができた。リストの変更もあるので、柔軟に対応していく必要がある。
			・係、各部の職員、図書委員会の生徒と連携し学校図書館の紹介、整理・製本、廃棄を積極的に行い学校図書館の円滑な運営に努める。	⑥	B	・長期休業中に学校図書館の整理を行うことができた。今後も、引き続き行い、学校図書館の活用に力を入れていきたい。
	表簿		・新規の帳簿等の作成と各帳簿の校閲を速やかに行う。（出席簿・会計簿・指導要録）	⑥	A	・長期休業や係会等の中で、帳簿の校閲を行った。出席簿のデジタル版を導入したり、要録の記入の手引きを整理したりすることで、職員がスムーズに帳簿処理が行えるように周知した。
			・書庫内の帳簿等の管理及び保存期間を過ぎた書類等の整理・整頓をし、廃棄の際は適切に行えるように準備する。	⑥②	B	・夏季休業中に書庫の整理を行った。帳簿の保存期間を確認して廃棄できるように整理し、次年度につなげる。
情報教育		・PCやタブレット端末を円滑に利用できる環境を目指して管理を行い、機器の充実を図り、効果的な運用を行えるようにする。	③	B	・各種機器の円滑な納入を進めたほか、有効活用のためのメンテナンスや情報提供を行った。次年度も同様に継続が必要。	
		・タブレット端末を活用した授業実践に向けて、研修や実践の計画的な実施に努める。	③	B	・職員向けの研修を行い、その活用に至ることができた。次年度もさらなる研修をしていきたい。	

※評価基準： A：十分達成できている B：達成できている C：概ね達成できている D：不十分である E：できていない

評価項目		具体的目標	具体的施策	重点目標との関連	評価	課題及び次年度の改善策
保健安全部	保健指導		・救急法実技講習会、坐薬挿入及び吐物処理等の研修会及びシミュレーション訓練を計画的に実施し、日常生活の中で起こりうる様々な事態に対応する力や知識の向上を図る。	⑥⑦⑧	B	・予定通り研修会を実施できた。今後もシミュレーション訓練や研修会を繰り返し実施することで、緊急事態に慌てず対応できるようにしていきたい。
			・コロナ禍における感染防止対策を感染症対策ガイドラインにより職員の共通理解を図り、協力を得られるように努める。	⑧	B	新型コロナウイルス感染症対策ガイドラインを基にコロナ禍のお知らせを作成し、職員室前と保健室前の廊下に掲示し、職員が共通理解を図れるようにした。職員室の電子黒板でもお知らせし、周知の機会を増やすことができた。
	環境教育	・学校保健計画、性に関する指導の年間指導計画に基づき、児童生徒の健康指導、健康管理の充実に努める。 ・新型コロナウイルス感染症対策ガイドラインに基づき、感染症防止対策の充実に努める。	・清掃分担区域の作成や用具等の補充及び整理を定期的に行うことで、清掃活動をスムーズに行えるようにしていく。 ・各部の作業学習班と連携した花壇等の管理や職員作業の計画的な実施に伴い、校舎内外の環境美化に努める。	⑧⑨ ⑧⑨⑩	B	昨年度の清掃状況を踏まえて、清掃分担区域を設定した。また、係員が定期的に清掃や用具類の状況等について確認を行うことで、清掃活動をスムーズに行うことができた。
	防災安全	・環境教育年間活動計画に基づき、校舎内外の環境美化に努める。 ・学校安全計画に基づき、学校における安全教育と安全管理の充実に努める。 ・学校給食年間指導計画、食に関する指導全体計画に基づき、食育の推進に努める。	・毎月の校内安全点検及び定期的な遊具安全点検を行うことで、危険不良個所の早期発見と修理を心掛け、安全な学校作りに努める。 ・様々な災害を想定した避難訓練の実施を計画することで、児童生徒及び教職員が臨機応変に対応できる力を高める。 ・災害時に備えた校内災害マニュアルの検討と防災設備の使い方研修を計画し、緊急時対応の強化を図る。	⑥ ⑨ ⑨	C C C	・毎月10日に安全点検を行うことになっているが、忘れている人もいるのでClassroomを活用して連絡をする。遊具点検は学期末に実施できた。 ・地震・火災、竜巻、原子力避難訓練と引き渡しのためのメール訓練の計4回の訓練とシェイクアウト訓練を実施することで、対応力をつけることができた。 ・職員研修で、防災設備の扱いについて実技ができた。校内防災マニュアルについては、合同会議でも意見をいただくことができた。
	給食・食育		・栄養教諭を中心とした、各部学年の実態に応じた食に関する指導を推進し食育の充実に努めるとともに、コロナ感染症予防に即した給食時の対応に努める。 ・食物アレルギーへの給食対応や再調理食提供について、医師の診断書等を基に食育委員会で検討し確実な対応を継続して行う。食物アレルギーに関する研修会を実施し、教職員の理解を深めていく。	⑤⑥ ⑤⑥	C B	・栄養教諭を中心に献立計画や栄養について、授業の教材を提供したり授業を実施した。給食時のコロナ対応を行い、掲示で呼びかけることを実践した。 ・食育委員会をもとに、医療機関、保護者、学校間で共通理解を図り、給食対応ができた。長期休業中には、エビベン⑩対応研修やアレルギーの危険性や対応について全職員に研修会を行った。
研究研修部	研究推進	・研究研修テーマ「日々、授業改善」のもと、令和3年度の研究成果、課題を踏まえ、「主体的・対話的で深い学びの視点を踏まえた授業改善」の校内研修、授業づくりを行う。 ・研修会を通して、特別支援教育に関する教員の専門性の工場や人権に対する理解啓発を図る。	・様々な少人数のグループ研究を設定し、授業改善の方法を提案する中で、個々の教師の「日々、授業改善」の定着に向けて、研修会を行っていく。 ・特別支援教育に関する教員の専門性や人権に関する内容の研修会を実施し、教員としての資質能力及び専門的知識を向上させ、日々の実践に活かせるようにする。	①②③④ ③④⑤	C C	・主体的・対話的で深い学びの実現に向けて、ブレインストーミングの方法で、職員間の日ごろの実践の情報やアイデアの共有を図るための校内研修を行ってきたが、「日々、授業改善の定着」が具体的に行えなかったことが課題である。次年度は、学校全体として、または部として現状や研修課題を明確化し、全職員間でその課題を共有しながら、校内研修の内容や方法を考えていく必要がある。 ・人権教育研修会では、性的マイノリティへの理解啓発を目的とした研修会を行い、新たな考えや気付きを得ることができた。校内研修においては、外部専門家と連携しての研修が2月～3月と遅くなってしまった。外部専門家と連携した研修を行う場合、年度当初に計画を立て、外部専門家の研修をその年度の実践に生かし、さらにそれを踏まえて、外部専門家の話をさらに聞くなど、計画的に行っていくと、さらによい。

※評価基準： A：十分達成できている B：達成できている C：概ね達成できている D：不十分である E：できていない

評価項目		具体的目標	具体的施策	重点目標との関連	評価	課題及び次年度の改善策
学習指導部	国語		・校内の国語科に関する教材教具の管理や整理を行い、活用に努める。 ・国語科に関する教材教具の活用方法や情報交換を行い共有できるようにする。	③④⑤⑥	B	・定期的に教材室の整理整頓や新しい教材などの管理を行った。また、年間指導計画の形式や内容の検討をを学部間で情報交換しながら行った。手紙の書き方体験授業の希望をとりまとめ、小学部の中学学年が活用できた。
	算数・数学		・校内の算数科に関する教材教具の管理及び整理と活用に努める。 ・教材教具の展示・紹介に向けて、係間で情報交換等を行い、教材の活用法を提案する。	③④⑤⑥	B	・教材室の整理整頓や教材教具の確認を行い、写真等を新調し、棚や箱等に提示したことで必要なものがどこになるのか一目で分かるようにした。また新学習指導要領を踏まえ年間指導計画の様式や内容を検討し、共通理解や情報交換を図ることができた。
	日常生活の指導		・生活訓練室および浴室の清掃、点検を定期的に行い、授業や行事等での活用を図る。 ・新しい生活様式を踏まえ、また新学習指導要領の目標や内容に基づいた年間指導計画の作成及び見直しを行う。	③④⑥⑧⑩ ⑪	A	・生活訓練室は、生徒の協力を得ながら、定期的に清掃することができた。また、夏季・冬季休業日を活用し、生活訓練室や浴室を清掃した。年間指導計画については、内容や書式などについて改善に向けた話し合いをし、学習指導部会で共有することができた。
	音楽		・学習指導要領の改訂の要点をふまえ、授業や年間指導計画の検討・改善を行う。 ・音楽室の整理整頓、楽器の管理・確認を行い、音楽室や楽器を活用しやすくする。	②①②③⑤⑨ ⑩⑪	C	・年間指導計画の記載内容を統一することはできたが、内容までの検討は至らなかった。 ・音楽室の整頓や楽器の置き場所を変えフロアを最大限に使用できるようにした。全体へ周知したが、部や学年によっては、古い場所へ楽器を置いてしまうことがある。
	図工・美術		・図工・美術教材室にある教材教具の整理整頓と有効活用に努める。 ・児童生徒作品を積極的に各種美術展へ出展し、児童生徒の造形活動の素晴らしさを学校外に広く伝える。	①②③⑤⑦	C	・今年度購入した教材をClassroomで職員に伝え、整理整頓と有効活用に努めることができた。今後は要望のあった教材教具を購入し、図工・美術教材室をさらに充実させる。 ・児童生徒作品を積極的にナイスハートやアールブリュット展などに出品し、児童生徒の造形活動の素晴らしさを学校外に広く伝えることができた。
	体育・保健体育		・児童生徒の運動技能について記録し、学年間・学部間で共有できるようにする。 ・用具の点検や備品、消耗品のチェックを行い、安全管理に努める。	②⑥	B	・単元ごと記録を保管し、学年・部で共有することができ、特体連等の大会での予想記録にデータ活用することができた。 ・安全に運動ができるよう、体育館、グラウンド倉庫の用具の点検を毎学期実施した。ボールやグラウンドコーンの亀裂がないか、細かく確認作業を実施した。
	職業・家庭		・各調理室の備品や消耗品の整理や清掃を行い、調理実習の再開に向けて準備を整える。 ・教材教具の廃棄や管理場所の検討をする。	①⑥	B	・各調理室とも整理整頓や不用品の処分を実施した。清掃や消毒は複数回にわたり実施し、調理実習を再開できるようにすることができた。今後も調理室使用のルールを、各職員に周知徹底することが必要と思われる。調理実習再開にあたり、チェックシートを新たに作成した。
	作業学習	・児童生徒へのよりよい指導支援や分かりやすい授業づくりの下支えとなる教材・教具の整理と活用に努める。	・各部の作業学習に関する情報交換を行い、生徒の作業能力の向上を目指した授業づくりに努める。	⑤⑬⑭	B	・中学部と高等部の作業学習について、どのように取り組んでいるのか定期的に情報交換を行うことができた。 ・学校の行事で販売を行えたが、新型コロナウイルス感染症のために販売の機会が少なくなっていたので、販売の機会を増やしていきたい。
	自立活動	・各教科領域の年間指導計画について、新学習指導要領の目標・内容に基づいた指導の充実や活動内容等についての見直しや検討を行う。	・セラピスト等学校訪問事業において、各専門家との連携を図り、児童生徒の自立活動の指導等に必要の助言を受けたり、相談したりできるようにする。 ・自立活動の指導手順シートに関して、校内で共通理解を図り、内容確認と有効活用に向けた連絡や情報交換等を行う。 ・教材教具の展示・紹介に向けて、係間で情報交換を行い、教材の活用法について提案する。	①②③⑥⑪ ⑮	B	・セラピスト等学校訪問事業では、前年度同様年1回の実施とし、計16件の相談をセラピストの先生にご指導をいただいた。次年度は2回の実施に反す方方向で計画している。 ・自立活動の指導手順シートは例年通り作成・見直しを周知してきた。教材教具の活用法の提案は難しかったが、初任者・中堅研修者と係で、授業紹介シートを作成し、他の学部や学年がの授業の情報交換ができた。次年度も授業紹介シートを活用できるようにし、職員にも周知できるようにしていきたい。
	総合的な学習（探究）の時間・社会		・各部の総合的な学習の時間の指導や教材教具に関する情報交換を行う。 ・災害の恐ろしさや防災意識の大切さの理解を図る。（中学部、高等部） ・地域に暮らす外国人と大切にしている文化を知る。（中学部、高等部） ・地域に暮らす人との交流を図る。（中学部、高等部） ・新学習指導要領の改訂のポイントをもとに年間指導計画や指導内容を見直し改善する。 ・校内の教材教具の有効利用に努め、授業等で作成した教材や資料を校内で共有できるようにする。	③④⑤⑥⑭ ⑮②	B	・定期的に係会を行い、各部の情報交換を行うことができた。各部の授業内容や必要な教材教具を話し合った。総合と社会と共通する内容もあり、棲み分けが難しい部分もあることを再認識することができた。今後は年計の見直しも必要性がある。
	特別活動		・部集会の企画・運営を円滑に行う。 ・クラブ活動、委員会活動、生徒会活動などを通して児童生徒同士の交流を図り、児童生徒の人とかかわる力を育む。	④⑤⑥	B	・部集会では、生徒会を中心に、企画・運営を円滑に行うことができた。新型コロナウイルス感染症予防のため、集うことはできなかったが、リモートを活用し、児童生徒が相互にやりとりできるような企画を考え、行うことができた。
	外国語		・外国語活動に取り組むことができるように、ALTを活用した授業を展開する。 ・教材教具の整理をするとともに、教材教具の活用方法についても検討する。	③⑧	B	・2日間ALTの授業を実施することができた。メールでのやり取りだけでなく、ALTと担当の先生に来校していただき、希望学年と十分な事前打ち合わせをすることができた。
	道徳・特別な教科道徳		・副読本の種類や冊数、保管場所などの周知を行い、活用の促進に努める。 ・年間指導計画や指導内容の確認を行い、活用しやすいような改善の検討を行う。 ・各部の道徳科の指導について、情報交換を行い、研修を深める。	①③⑪	C	・指導書等が図書室廊下下の書棚にあることは確認し、各学年等で周知することができた。副読本や指導書の種類に関する詳しい内容まで共有できるようにした方が活用の促進につながったのではないかと。年間指導計画の様式について、活用しやすいように検討を行った。道徳は「申し送り」ではなく「教材・教具」の記入欄を設けることとなった。指導内容については、各学年で工夫することができた。係内で授業略案や教材を持ち寄り、係内や初任者に情報交換をすることができた。
	生活単元学習・遊びの指導		・全職員が教材教具を有効に活用できるよう、データベースの作成や周知の徹底、係間での情報交換等を行う。 ・新学習指導要領に基づいた年間指導計画の確認及び見直しを行う。	③④⑥	C	・教材教具のリスト表から写真へのリンクを貼ったり、学習に活用できるサイト集の表を作成した。周知の徹底にまでは至らなかったため、継続してより活用できるものを共有できるようにしたい。小学部において季節単元の系統表を作成し、発展的な学習が行えるようにした。

※評価基準： A：十分達成できている B：達成できている C：概ね達成できている D：不十分である E：できていない

評価項目		具体的目標	具体的施策	重点目標との関連	評価	課題及び次年度の改善策
キャリア教育部	キャリア教育	・キャリア教育全体計画に基づき、小中高の発達段階に応じた学習活動が、継続して系統的な指導ができるよう研修を進める。 ・学校全体で進路に関する情報や知識を深め、卒業後の生活がより豊かで自分らしい生き方の実現につながるよう支援を図る。	・キャリア教育全体計画を踏まえ、各部の発達段階を考慮した「いいとみキャリア・パスポート」の作成や活用をし、系統的な指導の実践、工夫、改善へとつなげる。 ・生徒の実態や希望を踏まえ、関係機関と連携しながら、より豊かな生き方や自分らしい進路選択ができるよう職場開拓や連絡調整を行う。保護者や教職員に対し、分かりやすい情報提供や理解啓発に努める。	①③⑫⑬⑭	C	・各部や学年で「いいとみキャリア・パスポート」を活用することができた。今後、中身を見直していく必要がある。高等部だけでなく、中学部生徒が校内実習を体験するなど一部で系統的な指導を進めることができた。
	卒業生支援	・卒業生への支援を効率よく実施し、必要に応じた適切な支援をしていく。	・令和3年度卒業生を中心に、進路先への移行から定着に向けた支援を努める。本校現場実習期間に、担当者による訪問や電話連絡により、卒業生の進路先での課題把握や必要な支援、関係機関との連携を図る。 ・コロナ禍の情勢を踏まえながら、いいとみ卒業生の会としてのレクリエーション事業の方向性を示し、臨機応変に対応する。	⑪ ⑪	B B	・就労支援コーディネーター等との連携を図りながら職場開拓を行うことで、実習や採用につながる事業所を増やすことができた。保護者へは「キャリア教育部通信」、教職員へは夏の研修会を通じて、理解啓発に努めた。情報については常に更新されるので、その都度伝えていく必要がある。 ・高等部現場実習期間を活用し、1学期の巡回訪問から必要に応じて2学期から3学期にかけても追支援に入り、課題の解決や定着に向けた働きかけをすることができた。また、進路先や関係機関との連携を図り、今後の支援体制の整備に努めることができた。 ・レクリエーション事業の廃止を決定し、卒業生の会予算についても処理していく方向に決定した。予算は、中高等部作業班消耗品代として有効活用し処理する。
生徒指導部	生徒指導		・児童生徒の緊急捜索や校内に侵入した不審者の対応について、職員間の役割等を明確にし、速やかに、臨機応変に対応できるようにする。スムーズに活動に移行できるように緊急捜索、マニュアル等の見直し改善を常に図る。	⑥⑨⑮	B	・年度初めに捜索訓練を実施し、各職員の役割やマニュアルの確認をした。不審者対応訓練では、水戸警察署の協力を得て実施した。不審者対応や110番通報の流れに関して、警察のアドバイスを受け、いち早く110番通報をするために見直しを行った。今後も警察と連携して取り組んでいきたい。
	通学指導	・児童生徒の緊急事態等に対して迅速にかつ適切な対応ができるように務める。	・心豊かな児童生徒の育成といじめ・不登校への対応を図るための環境整備や組織的な連携を行う。	①②⑥⑦⑮	B	・定期的にいじめ防止対策委員会を実施した。不登校の児童生徒が増加傾向にあり、関係機関との連携を図りながら取り組む必要がある。
	スクールバス	・児童生徒の緊急事態等に対して迅速にかつ適切な対応ができるように務める。 ・豊かな心の育成といじめ・不登校への予防的取り組みと組織的対応を図る。 ・安全でスムーズなスクールバスの運行及び安全教育を重視した通学指導に努める。 ・健康で明るい生活を送るために心と身体の育成を図る。	・放課後デイサービス業者との連携を図りながら、安全に児童生徒の受け渡しを行い緊急連絡方法を確立する。 ・日常的なスクールバス運転手、乗務員との連絡やスクールバス委員会を行うことで交通状況に応じたスムーズで安全で安心な運行ができるようにする。 ・必要に応じて、児童生徒の車内の様子について乗務員、係、担任で情報交換をして安全に乗車できるようにする。	⑩⑩⑩⑩ ⑪⑫ ⑫⑮	A B B	・小学部児童が自主通学を行うことができ、早期に社会的自立に向けた通学指導を行うことができた。実態に応じて小学部段階から引き続き自主通学につなげられるような指導を担任と連携を図りながら行っていく。 ・申請時に、予め登録手続きを済ませることで連絡網に登録できた。新規のサービス業者の登録がスムーズに進むことができたため今後も同様に進める必要がある。 ・日常的に運転手や乗務員とコミュニケーションを取ったり、スクールバス委員会を行ったりすることで交通状況に応じて安全な対応をすることができた。
	部活動		運動部 ・記録測定を行うことで、自己目標を持ち、記録の向上を意識して主体的に取り組めるようにする。 ・陸上競技や各ボール競技等を楽しみながら活動することと将来的に継続してスポーツに取り組んで行こうとする意識の促進を図る。 文化部 ・活動内容を生徒または生徒同士で考え、主体的に取り組めるような支援（アドバイス、教材等）を行う。 ・活動の励みとなるよう、各種作品展への出展、始業式や終業式の校歌の伴奏等、発表の場を設ける。	②④ ②④⑥	B B	・スポーツテストや外部で行われる大会に合わせて、各種目の運動に取り組んでいくことができた。 ・夏は熱中症対策の為にグラウンドや体育館で部活を実施できない場合は、冷房設備がある室内で行うことができた。 ・蛍駅伝や茨城県障害者スポーツ大会等卒業後にも参加できる大会に向けて、記録を伸ばそうと練習する姿が見受けられた。 ・年度当初に取り組みたい活動アンケートを実施し、その結果をもとに教材を準備するなど、できるだけ生徒主体で活動できるように支援をした。また、始業式や終業式に動画という形で校歌を発表できたことは生徒にとって活動への励みとなった。この2点について今後も継続できると良い。
	PTA本部		・PTA運営委員会を各保護者の意見の場として捉え、積極的に意見交換が行えるような環境づくりに努める。 ・活動の報告をPTAだよりにて周知し、理解が深められるよう努める。	⑪	B	・PTA運営委員会では、多くの保護者に意見を述べる機会を設け、積極的なPTA活動についての意見交換が実施できた。また、学期末には「PTAだより」を発行し、出張・活動報告をしたり、保護者向けの情報の発信をしたりすることができた。
	PTA常設委員会		・PTA活動における保護者や地域の方々の安全・安心に十分に配慮した上で、活動の内容の可否を検討・判断し、本部係と連携して適切な企画・運営を行う。	⑪	B	・PTA活動の内容や実施時期については、企画時に本部係と連携し、十分検討を重ねることができた。また、活動実施時には、安全・安心に十分配慮を行い、適切な運営をすることができた。
渉外部	各種団体	・PTA活動において保護者の主体的な活動を支援し、学校及び家庭における教育に関し理解を深めその振興に努める。 ・各種団体等に積極的に参加し、本校の理解啓発に努めたり、教員の専門性の向上に努めたりする。	・茨城県高等学校文化連盟特別支援学校部門大会やアートエキシビションの円滑な運営に努める。 ・本校児童生徒や地域の方々への芸術文化活動における理解推進に努める。 ・研修会等を通して、特別支援教育に関する教員の専門性の向上を図る。 ・会員が主体的に研修に参加できるよう、研修会の準備を進める。	⑫⑫ ⑬	B B	・他校と協力し合い、部門大会を滞りなく運営することができた。学校紹介ビデオを作成し、文化的な活動等の理解推進に努めた。校内では、高文連掲示板を通して、高文連の活動内容を周知することができた。 ・研究研修部長、新規採用等研修係長の先生方の協力を得て、研修会を計画し、動画配信を行った。 ・様々な研修会の実施日や内容等を随時Classroomに載せることで会員がいつでも確認し、参加できるようにした。
	特推進		・関係団体相互の連携及び情報の交換等によって、障害のある子どもの教育及び福祉のさらなる振興充実を図る。 ・ナイスハートふれあいフェスティバルの運営に携わり、綿密な計画を立て円滑に遂行できるようにする。	⑫⑫	B	・障害者週間推進事業実行委員会や郡市部長会議において、ナイスハートふれあいフェスティバルにおける目的や内容等を詳しく説明し、共通理解を図れるように努めた。ナイスハートふれあいフェスティバルでは、事務局として美術展の運営に携わり、運営委員と協力・連携をすることで、準備や当日の運営など円滑に遂行することができた。

※評価基準： A：十分達成できている B：達成できている C：概ね達成できている D：不十分である E：できていない

評価項目		具体的目標	具体的施策	重点目標との関連	評価	課題及び次年度の改善策
小学部	1 基本的生活習慣 生活リズムを確立し、日常生活に必要な生活習慣を身に付ける。		・健康で規則正しい生活を通して、日常生活に必要な基本的な力を取得できるようにする。	①②④⑤⑥⑫	B	・生活単元学習の中で感染症予防について学んだり、日常生活の中で手洗いやうがいの大切さについて学んだりすることができた。次年度は時間を守って行うことや早寝早起きなど、連絡帳や電子連絡帳、個別面談を通して家庭と連携して規則正しい生活習慣の確率に向けて取り組む。
			・自分から取り組もうとする習慣や一人でできることを増やせるような場面を設定する。	①②④⑥	B	・必要に応じて学習予定表や手順表を用意することで、教師の少ない支援で活動できる場面が増えてきた。今後は教師の支援を控え、見守る場面を設定することで自分で考えて行動することができるよう共通理解を固める。
	2 コミュニケーション 人とかかわり合う楽しさを知り、適切なコミュニケーション力を育てる。		・友達や教師とのかかわりや様々な集団活動を通して、人とかかわる心地よさや自分から思いを伝えようとする気持ちや態度が育つように支援する。	①②④⑦⑧	B	・入学おめでとう会、学部集会、いよいよフェスティバル、卒業おめでとう会など、異年齢集団での活動を通して、それぞれの学年が主体的に活動することができた。感染症対策を徹底し、安全に授業や行事を計画している。
			・学校生活全般を通して生活のルールや約束を守ることの大切さを知り、人によりよくかわろうとすることができるようになる。	①②④⑦⑧	B	・道徳の授業や日常生活の中で、人とかかわり方について学ぶ機会を設定した。今後も継続して、人に対する思いやりをもっと接することの大切さを伝えていきたい。
			・交流（学年間、学部間、学校間）及び共同学習などを通して、いろいろな人とかかわることの楽しさを体験できるようにする。	⑤	B	・低学年は茨城大学の学生との交流、全体では作品を通して地域の小学校と交流を実施し、双方が楽しく学ぶ機会となった。また希望者は居住校交流を実施し、楽しく活動することができた。係とも協力し、有意義な交流となるよう検討する。
	3 キャリア教育 好きなことや得意なことを見つけ、進んでものごとに取り組むことのできる態度を養う。		・キャリア発達を考慮し、教師や友達と一緒に活動し、自分の好きなことや得意なことを見つたり、自分の役割を知ったりして、進んで取り組むことのできる力を育てるようにする。	④⑤⑥⑧	B	・低学年では買い物学習を通して自分の役割を果たすとともに、働く人の見学を通して学ぶことができた。高学年では消防署の地域でのホームセンターを見学し、質問を通してより深く労働について学ぶことができた。今後はより系統的に学習できるように内容を見直していく。
			・将来の自立と社会参加に向けて、保護者と連携して教育活動を推進するため、授業参観や個別面談、キャリアパスポート、進路だよりなどを通して「小学部段階で育てたい力」について共通理解を図るようとする。	⑤⑩	B	・個別面談や連絡帳等を通して児童の学習の成果や課題について家庭と共通理解を図りながら取り組むことができた。今後も自立と社会参加に必要な力を小学部段階から身に付けられるよう保護者や他部と連携しながら取り組んでいく。
	4 教科学習 日常生活に必要なことばやかず等の学びの基礎力を養う。		・適切なアセスメントを通して、児童の発達段階を把握し、個に応じた指導・支援を行う。	①②⑤⑥	B	・授業後に児童の様子について、学年内やグループ内で話し授業改善を行ってきた。今後も、学習の効果的な支援ツールなども検討しながら進めていく。
			・児童が主体的に取り組むことができるように、授業づくり、教材教具、ICT機器の活用などについて、より一層の工夫に努める。	③④	B	・学校全体での研修会、学部研修を通して授業改善に取り組んだ。また電子黒板の活用についても研修を行い授業に取り入れた。生活単元学習の内容を中心に、年間指導計画の見直しや系統票の作成をした。今後はその他の授業についても見直しを行う。
	5 体力・情操 進んで運動する習慣の形成に努め、健康で丈夫な身体づくりをするとともに、豊かな感性を育む。		・種々の遊びや運動、集団での活動を通して、身体を動かす習慣を身に付け、運動に自ら取り組もうとする意欲を育てる。	①②⑩⑫	B	・毎日の朝の運動や体育、休み時間のグラウンドやプレイグラウンドでの遊びの時間等を通して体力づくりを行うことができている。ICT機器の使用手法にも留意し、生涯を通して楽しく体を動かす習慣の基礎を培う。
			・身の回りの事物や出来事に関心をもち、楽しみながら音楽や図画工作などの表現活動に取り組むことができるようにする。	①②⑤⑥	B	・各教科・領域を関連付け、生活単元学習で季節について学んだことを歌唱に取り入れたり、収集した落ち葉や木の実を園工で使用したりした。学習内容を精選し、個に応じた表現ができるように支援方法や教材教具をさらに工夫していく。
小学部 第1学年	基本的な生活習慣・学習態度を身に付け、教師や友達と一緒に様々な学習や活動に取り組む意欲を育てる。		・自分の身の回りのことについて自分一人でできることが増やせるよう、家庭と連絡・連携を図りながら、個に応じた段階的な指導を行う。	①②④⑥⑬	B	・家庭との連絡・連携をこまめに行い、個に応じた段階的な指導を継続的に行ったことで、朝や帰りの荷物整理、給食の準備、着替えなど、一人でできることが増えた。
			・学習に応じて興味関心をもち、意欲的に取り組むことができるよう、授業づくりや教材・教具、かかわり方の工夫に努める。	①②③④⑥⑧	B	・授業改善を念頭に観察と実態把握に努め、教材・教具、かかわり方の工夫など引き続き行う。また、ICT機器の活用の仕方など工夫しながら、学習に取り組んでいく。
小学部 第2学年	日常生活の中で、基本的な生活習慣の定着を目指すとともに、教師や友達とかかわりながら、学習や活動にいきいきと取り組む態度を育てる。		・自分の身の回りのことを自分で行うことができるように、保護者との連携を図りながら、個に応じた段階的な支援を行う。	①②③⑥⑧⑫	B	・日々の児童観察をしながら個に応じた支援を段階的に行った。また、必要に応じて連絡帳等保護者と連絡を取りながら支援をした。
			・学習への興味・関心を広げ、教師や友達とかかわりの中で、意欲的に学習に取り組むことができるように、授業づくりや教材・教具、かかわり方の工夫に努める。	①②③④⑥⑪	B	・自作の教材・教具、タブレット端末等を活用し、個に応じた教材の提示を行った。また、個に応じたかかわり方に努めた。
小学部 第3学年	集団活動を通して、基本的な生活習慣の定着を図ると共に、自ら進んで学習や活動に取り組もうとする力を育てる。		・自分の身の回りのことや係の活動を通して、相手の話を聞いた様子を確認しながら、自分で考えて取り組める場面を設定する。	①②③⑥⑦⑪	B	・学期ごとに係活動の希望をとり、いろいろな活動に取り組めるようにしたこと、積極的な活動する様子が見られた。また、帰りの会で「頑張ったこと」を発表することで、友達に伝えたい話を聞く態度を育てることができた。
			・学習への意欲や児童の興味関心を引き出し、「できた」「できた」などの達成感を味わえるよう学習内容の設定や教材の工夫に努める。	①②③④⑥⑦⑧	B	・タブレット端末を学習の中で活用することで、興味をもって取り組む児童の様子が多く見られた。体育は競技の記録を取り学期末に記録表を渡すなど、児童が意欲的に活動できるように努めていく。
小学部 第4学年	集団活動の中で、自分を見つめ、他者と認め合う関係性の基礎を身に付け、自分の力を生かして集団内での役割や活動に進んで取り組む態度を育てる。		・自立活動を中心に、各教科の学習や日常生活全般において、個に応じた自己表現の力を身に付けることに取り組む、他者との適切なかかわり方の基礎としての場面設定や手本の提示、体験的活動を行う。	①②③④⑤⑥⑦⑧⑪⑫	B	・自立活動を中心に、個々の課題を明確にし、グループングして学習することで、個の課題に迫りながら他者とかかわり設定することができた。児童の課題を改めて見直し、次へとつなげることが課題である。
			・児童が自分で考え、気付き、取り組むことができるように、学習内容や課題の提示の仕方、教材教具の工夫を行い、児童の迷いや間違いを丁寧に受け止めてフィードバックできるよう努める。	①②③④⑤⑥⑪⑫⑫	B	・児童の興味を大切にして、学習への手掛かりにしたり、タブレット端末を使って、児童が自分で操作して即時評価をしたりすることで、次への意欲につなげることができた。児童の間違いや失敗を「大丈夫」と思えるような支援が必要である。
小学部 第5学年	集団生活を通して、適切な人間関係を築くとともに、自分の役割が分かり、他者と協力して主体的に取り組むことができる力を育てる。		・日常生活全般や各教科で児童同士が相談、協力して活動する場を設定し、生活の中で生かす機会を増やす。	①②④⑤	B	・様々な場面で、グループに分けて活動する機会を設けた。少人数にすることで、役割が増え、児童同士が相談や協力しようとする姿が見られた。
			・いろいろな集団の中で、ルールや役割のある活動を通して、達成感や満足感を味わえるような授業づくりや教材教具、かかわり方の工夫、改善に努める。	①②③④⑤⑬	B	・児童が主体となって、ルールや役割について考えられるように努め、意欲的に役割を果たす様子が見られた。ルールについては、日々の生活と密接に関連しているのを継続した支援が必要である。
小学部 第6学年	集団生活を通して、適切な人間関係を築くとともに、自分の役割が分かり、他者と協力して主体的に取り組むことができる力を育てる。		・相手の年齢や性別等に応じた他者との適切なかかわり方を身に付けられるよう、指導や働きかけの工夫、改善に努める。	①②③⑤⑥⑪⑫⑫	B	・クラス、グループなどいろいろな集団を通して、人と関わる機会を設定した。大人の人や授業中に「です」「ですか」など丁寧な言葉遣いで話することができるようになってきた。今後も、経験を重ねる中で、適切なかかわりが身に付けられるよう支援が必要である。
			・自分で考えて行動したり、友達と助け合ったりしながら課題を解決することで、達成感や成就感を味わえるような機会や場を設ける。	①②③④⑥⑫	B	・児童が司会進行をして、話し合い活動を行う機会を多く設けたことで、話し合いがスムーズにできるようになってきた。また、クラスのリーダーを中心に子ども同士を掛け合う習慣がついてきている。これからも、自分で考えて、友達と助け合う機会を多く設定していくと良い。

※評価基準： A：十分達成できている B：達成できている C：概ね達成できている D：不十分である E：できていない

評価項目		具体的目標	具体的施策	重点目標との関連	評価	課題及び次年度の改善策
中学部	1 基本的生活習慣 日常生活や社会生活において必要な基本的生活習慣を確立する。		・身の回りことを自分から行おうとする意識を高め、習慣化を図るとともに定着できるようにする。	①②③⑤⑥ ⑪⑫	B	・自分から身の回りことを行えるよう、指導をすることができた。今後は、より個に応じた指導の充実を図る。
			・場の状況に応じた身だしなみやマナーを意識して行動できるようにする。	①②④⑤⑥ ⑪⑫	B	・面談等を通して家庭と連携し、身だしなみやマナーについて指導することができた。
	2 コミュニケーション 集団生活における適切な態度や協力して活動する姿勢を養う。		・集団活動を通して、人とかわり合いながら生活する力を高めることができるようにする。	①②④⑦⑪ ⑫	B	・コロナ禍のため、異学年での交流は難しいこともあったが、学級・学年単位での指導を充実させることができた。
			・生徒同士が協力して活動する中で、達成感や達成感を味わうことができるようにする。	①②④⑦⑪ ⑫	B	・生徒同士が協力して保護者に作業製品を販売するなど、達成感を味わうことのできる活動を実施することができた。
			・交流及び共同学習をはじめ地域との交流活動を推進し、様々な人たちとかわり合う力を養うことができるようにする。	①⑤⑨	B	・学校間交流は実施できなかったが、作品を通じた交流を地域の学校と行うことができた。
	3 キャリア教育 夢や希望を見つけるとともに、その実現に向けて必要な基礎的・基本的なスキルを育てる。		・キャリア発達を考慮した上で、「働くこと」に関する体験学習の機会を多く設定することで、職業に関する知識の習得や将来への夢や希望をもつことができるようにする。	①②①⑫⑬ ⑭	A	・様々な職業について調べる学習を行った。更に、職場見学を実施し、工場や店舗で働く人に直接接して話を聞く機会をもつことができた。
			・保護者に対して進路相談会等を実施し、進路についての意識を高めるとともに、課題を共有することができるようにする。	⑤⑦	B	・進路相談会の実施はできなかったが、進路や課題等について懇談や面談で共通理解をすることができた。
	4 教科学習 社会生活に必要な基礎的・基本的な力の向上を図るとともに、主体的に課題に取り組もうとする態度を養う。		・保護者との連携を密にするとともに、適切なアセスメントを行うことで、生徒の課題やニーズを的確に把握し、生徒一人一人への指導の充実や支援の工夫を図る。	①②③④⑥ ⑬⑤⑦	B	・個別面談を通して、個別の指導計画を基に保護者と連携した教科指導を行うことができた。今後はSM社会生活能力検査の活用など適切なアセスメントと活用を推進する。
			・ICT機器の活用を通して、生徒が主体的に学べる環境づくりを促進する。	①②③④⑥	A	・タブレット端末を活用した調べ学習等、ICTを活用した学習活動を実施することができた。
	5 体力・情操 豊かな心と丈夫な体の育成に努める。		・個々の実態に応じた運動を通して、健康の保持や体力の向上を図るとともに、運動に親しむ態度や集団で運動を楽しむようとする意欲を育むことができるようにする。	①②⑤⑥	B	・個々の実態に応じた運動を設定することで健康の保持や体力の向上を図ることができた。引き続き自分から運動を楽しむようとする意欲を育めるような指導の充実を図る。
			・個々の実態や思春期における心身の変化を考慮しながら、豊かな心を育む。	①②③⑤⑥ ⑦⑪	B	・美術や音楽を通した情操教育を実施できた。今後は他人を思いやる心など道徳性を身に付けられるよう、道徳教育の充実を図る。
中学部 第1学年	中学部の生活に慣れ、学習活動に見通しをもって、主体的に取り組むことができる。		・アセスメントを十分に行い、一人一人の実態や特性を把握し、個に応じた支援の工夫・改善を図る。 ・達成感や充実感を得られるよう、実態に応じた意欲を引き出すような目標設定や教材、支援の工夫などを行う。	①②⑫ ③④⑬	B	・実態に応じたグルーピング、学年会での情報交換、支援について共通理解や意見交換により、個に応じた支援を工夫することができたが、実態差の多いグルーピングになった教科もあった。次年度は各教科の特性も踏まえ、教員の配置も考慮しグルーピングや支援内容の改善を図りたい。
	情緒の安定を図り、集団の中で様々な活動に最後まで取り組めるようにする。		・見通しをもち、落ち着いて活動に取り組むことができるように、教室環境や活動の流れの構造化を工夫・充実させる。 ・友達をかわり合いながら活動する場面を多く設定し、仲間意識を育てる。	④⑥ ⑦⑨	C	・日課表等の掲示、用具場所の固定化など教室環境を整え、自分から活動に取り組むことができた。学習でグループ活動を設定することで、友達とかわかることができたが、トラブルもあった。次年度はコミュニケーションにおけるマナーの指導、集団づくりの力を入れたい。
中学部 第2学年	基礎的な学力や丈夫な体、集団生活において協力して活動しようとする姿勢や態度を育てる。		・十分なアセスメントにより一人一人の実態を的確に捉え、実態に応じた支援の工夫を図る。 ・学級や学年、さらには他学年の友達とかわり合い、協力して学習活動に取り組めよう、支援の充実を図る。	①②③④⑤ ⑥ ⑬	B	・気持ち不安定な生徒及び保護者に対する支援について、学年で話し合い、共通理解のもと支援を行ってきた。今後はカウンセラー等、外部の専門家を活用し、さらなる支援の充実を図りたい。
	自分の役割を知り、主体的に学習活動に取り組めるようにする。		・部や学年の学習活動を通してキャリア発達を促し、自分の役割に気付く主体的に取り組めるよう、学習環境の工夫や授業づくりを行う。	②④⑤⑭	B	・特に宿泊学習に向けての学習では、係ごと、学級ごとに、係の仕事や学級の出し物の練習に主体的に取り組むことができた。全ての生徒が活躍できる場を、今後も設定していく必要がある。
中学部 第3学年	基礎学力の向上と体力の増進を図り、集団で協力し高め合いながら活動しようとする態度を育てる。		・十分なアセスメントにより、個に応じた支援の工夫と充実を努め、学力・体力の向上を図る。 ・集団での活動において、自分の取り組むべき課題や役割を意識できるよう、支援の仕方や場の設定を工夫する。	①②③⑩⑫	A	・特に個別に配慮が必要な生徒については、そのつど支援会議を行いながら、支援の方向性を学年で共通理解しながら進めていくことができた。 ・個に応じた充実した支援を行うことができ、個々の向上が学年全体としても高め合う結果となった。
	自分の進路について考え、基礎的スキルを育てる。		・高等部の見学や体験、職場見学を行い、職業についての知識や態度を身に付けることができるようにする。	④⑤⑥	A	・進路学習を計画的に進めてきたのと同時に、日々の生活の中でも、生徒自身が次の進路を考えて行動できるための支援を継続的に行うことができた。

※評価基準： A：十分達成できている B：達成できている C：概ね達成できている D：不十分である E：できていない

評価項目		具体的目標	具体的施策	重点目標との関連	評価	課題及び次年度の改善策
高等部	1 基本的な生活習慣 自立した生活に向けた生活習慣の確立とそれに必要な知識・技能を高め定着を図る。		・学校生活の手引きを活用し、集団生活をする上で決まりを守ることの大切さを知り、学校生活や社会参加に必要な生活習慣を身に付けることができるようにする。	①②③①②	B	・年度初めに生活の手引きを確認する場を設けるとともに、集団生活や社会生活で必要な力が身に付けられるようマナーや態度等については、今後も外部講師も活用しながら定期的に学習に取り入れていく。
			・日常生活をする上で必要なスキルを身に付け、自ら考えて身に付けた知識や技能を発揮できるようにする。	①②③①②	B	・新型コロナウイルス感染症など、予防するために必要な知識を身に付け、日々実践できるよう確認しながら取り組んでいく。
	2 コミュニケーション 卒業後の円滑な社会生活・職業生活を送るためのコミュニケーション力を育てる。		・社会の一員として、あいさつや返事、報告や質問等の基本的な行動や態度の定着を図ると共にそのスキルを高められるようにする。	①②④①	B	・あいさつや返事、報告・質問など必要な基本的な態度について、日々の学校生活の中や現場実習・校内実習等で継続的に確認していく。
			・現場実習など様々な人とのかわりの中でお互いの立場や考え方を理解し、適切な対応ができる力を身に付けられるようにする。	①②①②③⑤	B	・現場実習の評価表を個別面談等で保護者も含めて一緒に確認することで、言葉遣いや態度など自分の行動を振り返り、普段の生活に生かせるようにしていく。
			・地域貢献活動を通して、地域とのかわりについて考え、様々な人の中で活動する経験の拡大を図るようにする。	①⑦⑧	B	・校内実習の中で飯富市民センターや長者山荘への清掃活動に加え、レイクビュー水戸での花壇の整備など活動の場を少しずつ広げることができた。
	3 キャリア教育 将来像の実現化に向けて、知識・技能・態度を身に付ける。		・作業学習、職業教育を通して、必要な知識・技能を身に付けるとともに、キャリアパスポートを活用しながら自己理解を深め、自分に合った進路選択できるように指導・支援を行うようにする。	⑫⑬⑭⑤	B	・1年生の職場体験については、校内実習とは別に12月に計画したことと、ほぼ予定通り実施することができた。現場実習もついても、延期等の対応をしながら進めることができた。今後もその時の状況で臨機応変に対応しながら、生徒の体験する機会に努めていく。
			・個に応じた進路選択ができるよう進路情報の収集に努めると共に保護者への情報発信を行い、保護者と連携した進路指導ができるようにする。	⑫⑬④⑤⑥	B	・学年懇談会を通して、担当者から進路の大まかな流れを説明し、その後個別面談でさらに具体的に必要なることを保護者に伝えることができた。今後もこの流れをベースにして、理解啓発に努めていく。
	4 教科学習 これまでに培ってきた学力を応用し、社会生活の中で生かす力を養う。		・生徒一人ひとりが身に付けた力を生活の中で発揮できるように、保護者と共通理解を図り、学校と家庭が連携して継続した指導の実践ができるようにする。	①②③④②	B	・個別面談で生徒のできることや課題になること等を保護者と確認し、今後も実施に合った学習目標を立て学習を進めていく。
			・調べ学習や体験的学習など様々な学習において、タブレット端末を積極的に活用することで、学習の充実を図り、興味をもって学習に取り組むことができるようにする。	①②③④②	B	・1年生については9月に全員のタブレット端末が届き、学習に活用することができた。使用していく中で、生徒たちのスキルも徐々に上がってきた。今後も、生徒全員がタブレット端末を所有できるよう体制を整えていく。
	5 体力・情操 社会生活に必要な豊かな心と健康な体づくりに努める。		・体育や部活動(運動部)を通して体力作りに努めると共に、健康への意識を高めながら、生涯スポーツにつなげる。	⑤⑤	B	・天候に恵まれず、記録会やマラソン大会を実施することができなかったが、部全体で活動できる場として、計画したことを今後に生かしていく。また、特体連スポーツ大会や螢駅伝などの活躍を生徒たちに伝えることで、生涯スポーツに対する関心を高めていく。
			・生活年齢や生徒の興味・関心に応じた豊かな情操を養い、余暇活動(文化部を含め)の充実を図る。	④⑤⑤	B	・活動の場が限られているが、始業式の中で校歌の演奏動画を披露したり、作品を廊下に展示したりと生徒の活動の様子を伝えることで、生徒たちの意欲を高める工夫を今後もしていく。
高等部 第1学年	友達同士認め合い、協力して活動できる集団を築けるようにする。		・楽しく充実した学校生活を送ることができるような学級及び学年づくりに努めながら、学校生活の意義を理解し、生徒同士が協力して活動できるような場面を多く設定する。	①②③①	B	・新たな友達が増え、慣れない環境の中ではあったが、日々の活動や行事を通して、友達の良い所を認め合える学習や教師の関わりにより、友達同士の関わりも活発にできた。次年度は、生徒の実態や相性などを考慮し、適切な人間関係が築けるよう努める。
	働くことに興味をもち、進路を意識して学習に取り組むことができるようにする。		・作業学習や校内実習等を通して、自分の将来について主体的に考えることができる基礎を作るための授業実践に努める。	①①⑫③④	B	・作業学習は生徒が興味をもち、実態にあった学習を行うことで自主的な活動を促した。また、進路学習週間や校内実習、職場体験を通し、進路への意識を高めることができた。次年度は、保護者との連携に努めていく。
高等部 第2学年	お互いを尊重し合い、支え合いながら切磋琢磨し合える集団作りに努める。		・一人一人の長所、短所をお互いに認め合い、生徒同士が協同する活動を多く設定する。	①②⑥①	B	・次年度は学校生活だけではなく、社会の中で生かすことにつながるような活動を考えたい。
	学校生活を通し、自分の進路について考え、課題解決に取り組めるようにする。		・各授業の学習内容を関連させて行い、生徒自ら進路について考えたり、挑戦したりしようとする授業づくりに努める。	①⑫③④	B	・普段の生活で行っている様々なことが、将来の進路につながっていることを意識できるように授業づくりに取り組めた。次年度も、この取り組みを継続する。
高等部 第3学年	お互いに支え合いながら、関わるすべての人に感謝の気持ちをもてる集団作りに努める。		・生徒同士が協同しながら、支え合う大切さや感謝の気持ちを伝えられる場面を設定する。	①③⑥⑦①	B	・日常生活において、生徒同士が声を掛け合いながら活動し、「ありがとう」を言う場面が多くなった。
	卒業後の進路決定に向け、目標を立て課題に取り組めるようにする。		・各授業の学習内容を関連させて行い、生徒自ら進路決定む向け目標をたてたり、課題に取り組んだりできる授業づくりに努める。	①③⑫③④	B	・進路学習等を通して、自分の課題を見つけ、課題に取り組むことができた。